

補充問題〔第1回〕

問題 1

1	イ	2	ウ	3	カ	4	ソ
5	ク	6	ケ	7	シ	8	ス

問題 2

1	ウ	2	ア	3	ウ	4	ア	5	エ
6	イ	7	ケ	8	セ	9	コ	10	ソ

問題 3

問 1

	比 率 名	C 社	D 社
①	流動比率	237.8%	84.0%
②	当座比率	202.4%	48.0%
③	総資産負債比率	28.1%	72.4%
④	固定長期適合率	60.8%	111.7%
⑤	売上債権回転率	5.4回	3.9回

各分析指標の計算式は以下のようになる。

$$\text{①流動比率：C社} \quad \frac{88,000}{37,000} \times 100 = 237.8\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{420,000}{500,000} \times 100 = 84.0\%$$

$$\text{②当座比率：C社} \quad \frac{50,000 + 25,000 - 100}{37,000} \times 100 = 202.4\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{60,000 + 180,000 - 100}{500,000} \times 100 = 48.0\%$$

$$\text{③総資産負債比率：C社} \quad \frac{45,000}{160,000} \times 100 = 28.1\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{1,100,000}{1,520,000} \times 100 = 72.4\%$$

$$\text{④固定長期適合率：C社} \quad \frac{72,000}{110,500 + 8,000} \times 100 = 60.8\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{1,100,000}{385,000 + 600,000} \times 100 = 111.7\%$$

$$\text{⑤売上債権回転率：C社} \quad \frac{130,000}{\{23,100 + (25,000 - 100)\} \div 2} = 5.4\text{回}$$

$$\text{D社} \quad \frac{700,000}{\{177,000 + (180,000 - 100)\} \div 2} = 3.9\text{回}$$

※当座資産＝現金及び預金＋受取手形及び売掛金－貸倒引当金（流動）

売上債権＝受取手形及び売掛金－貸倒引当金（流動）

問 2

総合的に判断すると、安全性において（ C ）社の方が、優れている。

理 由

短期的な支払能力を示す流動比率、当座比率とも、C社がD社より非常に良好な数値となっている。D社は、流動比率、当座比率がそれぞれ安全性の目安である200%、100%を大きく下回っており、支払能力に問題がある。

長期的な安全性を示す総資産負債比率、固定長期適合率においても、C社がD社よりも高い安全性を有している。D社の固定長期適合率は100%を超えていることから、固定資産の一部を流動負債でまかなっていることになり、安全性の面で問題である。

以上より、安全性において、C社の方が優れている。

問題 4

1	ケ	2	キ	3	ア	4	キ	5	サ
6	ケ	7	サ	8	イ	9	エ		

なお、株価収益率（P E R）、株価純資産倍率（P B R）は以下の式により求められる。

$P E R = \text{株価} \div 1 \text{株当たり当期純利益} \cdots \textcircled{1}$

$P E R = \text{株式時価総額} \div \text{親会社株主に帰属する当期純利益} \cdots \textcircled{2}$

ただし、 $1 \text{株当たり当期純利益} = \text{当期純利益} \div \text{発行済株式数}$

$\text{株式時価総額} = \text{発行済株式数} \times \text{株価}$

$P B R = \text{株価} \div 1 \text{株当たり純資産} \cdots \textcircled{3}$

$P B R = \text{株式時価総額} \div \text{自己資本} \cdots \textcircled{4}$

ただし、 $1 \text{株当たり純資産} = \text{純資産} \div \text{発行済株式数}$

$\text{自己資本} = \text{株主資本} + \text{その他の包括利益累計額}$

したがって、E社、F社それぞれのP E R、P B Rは以下のようになる。

E社： $P E R = 500 \text{円} \div (20,000 \text{百万円} \div 2,000 \text{百万株}) = 50 \text{倍} \cdots \textcircled{1}$

$= (2,000 \text{百万株} \times 500 \text{円}) \div 20,000 \text{百万円} = 50 \text{倍} \cdots \textcircled{2}$

$P B R = 500 \text{円} \div (400,000 \text{百万円} \div 2,000 \text{百万株}) = 2.5 \text{倍} \cdots \textcircled{3}$

$= (2,000 \text{百万株} \times 500 \text{円}) \div 400,000 \text{百万円} = 2.5 \text{倍} \cdots \textcircled{4}$

F社： $P E R = 2,000 \text{円} \div (10,000 \text{百万円} \div 50 \text{百万株}) = 10 \text{倍} \cdots \textcircled{1}$

$= (50 \text{百万株} \times 2,000 \text{円}) \div 10,000 \text{百万円} = 10 \text{倍} \cdots \textcircled{2}$

$P B R = 2,000 \text{円} \div (100,000 \text{百万円} \div 50 \text{百万株}) = 1 \text{倍} \cdots \textcircled{3}$

$= (50 \text{百万株} \times 2,000 \text{円}) \div 100,000 = 1 \text{倍} \cdots \textcircled{4}$

※両社は会計期間を通じて子会社の株式をすべて保有しているため、連結上の当期純利益と親会社株主に帰属する当期純利益が一致する。

※純資産の内訳は株主資本とその他の包括利益累計額のみであるため、純資産の金額と自己資本の金額は一致する。

補充問題〔第2回〕

問題 1

	正 誤	理 由
1	×	趨勢分析は時系列的な分析である。
2	×	棚卸資産は、貸借対照表項目である。
3	○	
4	○	
5	×	投資活動によるキャッシュ・フローの部に計上される。
6	×	固定負債の情報は含まれない。
7	○	

〔注〕以上は、標準の解答であり、たとえば、1について「他の企業と比較する方法は、比較分析である。」としても正解となる。他も同様である。

問題 2

1	オ	2	ウ	3	カ	4	キ	5	ア
6	イ	7	ク	8	ク	9	ク	10	コ

問題 3

問 1

	分析指標	前事業年度	当事業年度
①	総資産当期純利益率	2.0%	5.0%
②	売上高売上総利益率	30.0%	33.9%
③	流動比率	203.9%	200.0%
④	総資産負債比率	80.7%	68.5%

各分析指標の計算式は以下のとおりである。

（前事業年度）

$$\text{①総資産当期純利益率} = \frac{7,662}{(380,000 + 376,520) \div 2} \times 100 = 2.0\%$$

$$\text{②売上高売上総利益率} = \frac{64,800}{216,000} \times 100 = 30.0\%$$

$$\text{③流動比率} = \frac{152,200}{74,630} \times 100 = 203.9\%$$

$$\text{④総資産負債比率} = \frac{303,980}{376,520} \times 100 = 80.7\%$$

(当事業年度)

$$\textcircled{1} \text{総資産当期純利益率} = \frac{17,236}{(376,520 + 314,090) \div 2} \times 100 = 5.0\%$$

$$\textcircled{2} \text{売上高売上総利益率} = \frac{87,760}{259,200} \times 100 = 33.9\%$$

$$\textcircled{3} \text{流動比率} = \frac{117,600}{58,800} \times 100 = 200.0\%$$

$$\textcircled{4} \text{総資産負債比率} = \frac{215,200}{314,090} \times 100 = 68.5\%$$

問 2

総合的に判断すると、当期は前期に比べて、

(ア) 良くなった。 イ．変わらない。 ウ．悪くなった。)

理 由

収益性についてはすべての指標が良くなっている。安全性について、総資産負債比率が低下している。一方、流動比率が低下しているが、当事業年度も200%基準を満たしているの
で、これも問題がない。したがって、総合的には当期は前期に比べて良くなったといえる。

[注] なお、少数株主持分が大幅に減少しているが、これはたとえば不良子会社との関係を清算したものと推理される。

問題 4

1	10,000	2	13,000	3	新株	4	100
5	200	6	4,100	7	20	8	4,120

補充問題〔第3回〕

問題 1

1	イ	2	オ	3	エ	4	カ	5	オ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題 2

1	ア	2	カ	3	ウ	4	エ	5	キ
6	ク	7	サ	8	ソ	9	タ	10	ツ

問題 3

問 1

	分析指標名	B 社	C 社
①	総資産当期純利益率	2.9%	1.7%
②	株主資本当期純利益率	6.0%	3.2%
③	固定長期適合率	103.4%	102.6%
④	総資産負債比率	52.4%	54.4%

各分析指標の計算式は以下のとおりである。

$$\text{①総資産当期純利益率：B社} \quad \frac{65,000}{(2,200,000 + 2,300,000) \div 2} \times 100 = 2.9\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{68,600}{(4,080,000 + 4,220,000) \div 2} \times 100 = 1.7\%$$

$$\text{②株主資本当期純利益率：B社} \quad \frac{60,000}{(928,400 + 1,071,600) \div 2} \times 100 = 6.0\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{60,000}{(1,893,000 + 1,896,920) \div 2} \times 100 = 3.2\%$$

$$\text{③固定長期適合率：B社} \quad \frac{1,464,200}{(1,071,600 + 344,000)} \times 100 = 103.4\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{3,217,040}{(1,896,920 + 1,237,800)} \times 100 = 102.6\%$$

$$\text{④総資産負債比率：B社} \quad \frac{1,206,000}{2,300,000} \times 100 = 52.4\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{2,296,200}{4,220,000} \times 100 = 54.4\%$$

問 2

総合的に判断すると B 社は C 社に比べて、

(ア. 良い。 イ. 変わらない。 ウ. 悪い。)

理 由

収益性については、総資産当期純利益率も株主資本当期純利益率も B 社の方がよい。安全性については、総資産負債比率は B 社の方がよい。固定長期適合率は C 社の方がよいが、その差はわずかであるため、総合的に判断して B 社の方がよい。

問題 4

1	ウ	2	オ	3	カ	4	キ
5	サ	6	シ	7	コ	8	ス

補充問題〔第4回〕

問題 1

1	ウ	2	オ	3	エ	4	サ
5	ウ	6	カ	7	オ	8	キ

問題 2

1	ア	2	セ	3	キ
4	ア	5	ク	6	オ

問題 3

問 1

	分 析 指 標 名	C 社	D 社
①	売上高売上総利益率	42.3%	42.3%
②	売上高営業利益率	17.8%	24.5%
③	経常収益経常利益率	27.7%	29.1%
④	流動比率	277.3%	211.6%

各分析指標の計算式は以下のとおりである。

$$\text{①売上高売上総利益率：C社} \frac{215,300}{509,300} \times 100 = 42.3\%$$

$$\text{D社} \frac{408,500}{966,500} \times 100 = 42.3\%$$

$$\text{②売上高営業利益率：C社} \frac{90,600}{509,300} \times 100 = 17.8\%$$

$$\text{D社} \frac{236,800}{966,500} \times 100 = 24.5\%$$

$$\text{③経常収益経常利益率：C社} \frac{161,000}{509,300 + 70,900} \times 100 = 27.7\%$$

$$\text{D社} \frac{299,500}{966,500 + 63,700} \times 100 = 29.1\%$$

$$\text{④流動比率：C社} \frac{418,700}{151,000} \times 100 = 277.3\%$$

$$\text{D社} \frac{994,500}{470,000} \times 100 = 211.6\%$$

問 2

総合的に判断すると、(D) 社の方が優れている。

理 由

売上高売上総利益率はC社，D社に違いはないが，売上高営業利益率，経常収益経常利益率ともにD社が良い。ただし，流動比率は，C社のほうが良い。しかし，流動比率は，200%を超えていれば良いとされているので，C社，D社とも特に短期安全性に問題はない。したがって，収益性の観点で優るD社のほうが総合的には良いといえる。

問題 4

問 1

1	コ	2	ク	3	ア
4	キ	5	カ	6	ウ

問 2

	前 期	当 期
配当性向	40%	60%

配当性向は，以下の式により計算される。

配当性向＝（配当金／親会社株主に帰属する当期純利益）×100（％）

したがって，前期および当期の配当性向は以下のようになる。

前期：（10,000／25,000）×100＝40%

当期：（30,000／50,000）×100＝60%